

態醜の此!よ見

味方の装甲車を狙撃!!!

（天津十九日）我が
軍隊は十九日と引續
き山西省忻口鎮及び娘子關附
近の我が地上部隊と協力、敵
主襲陣地に猛烈と燃發を敢行
多大の効果を収めた。
（天津二十日）平蘆線を控へ
る滹河附近地区を確保した。我
が先頭部隊の一部は廿日早朝
破壊された滹河鉄橋に存存す
る橋脚を襲はり南岸に登し、
滹河鉄橋を確保した。
（天津十九日）蘆州驛線の跡
を觀察した米國のクレイン中

(巨額十九日)我軍と協力、莫河を畔に遼寧中の蒙古軍は十九日午後早く巨額西方六十キロの公廩に達した。

妙齡婦女・少年の屍体、敵屍に交る

(上海十九日)陸軍飛行隊は十九日朝葉爾斯韋爾附近の敵砲兵陣地を殲滅せしめた。一方地上部隊は楊窪クリーク方面の新宅、岳宅附近の敵陣地を奪取した。又店福南方馬家宅、沈家巷附近の陣地を奪取し敵左面方に壓迫してゐる。

上海前線の敵は連日の夜を徒
 撃に新く動搖の色見へ墜環や
 田畑の至る処に敵屍体の散乱
 してゐるが、特に目立つて獲
 たのは之等遺棄屍体の内に十

水陸兩路で武器搬入

佐は詔る。
 徳川は日本軍の驟然たる軍
 魂を、矯正工作により市民は
 如何にと慰撫し切つてゐた
 見渡す限りの大洪水であつた
 堅固な敵陣地と水の中立陸
 戦した日本軍の強さには全
 く心服した。

企劃院廿五日店開手

が海軍の支那船舶に遮断實施
後には支那船舶出入の跡をだ
現在では外國船が少數出入し
てゐるのみである

上海海關發表によれば九月中
の入港船舶は廿隻十三万四千
屯、八月に比し四十三隻廿二
万八千屯と右數に放ち約三分
の一に激減してゐる。尚、日本
船は上海に長崎との通運船
船が定期航続してゐるが事變
以來海關に届出をしてゐない
ために右に含まれてゐない

電力統制案腹案成る

(東京廿日) 企劃院は廿五日
店開きするが政府としては先
づこの際、最と急を要する北支
に於ける経済援助、その運用
資金関係などに対する具体的
研究調査を進める方計である

赤の闘士
戦上西
線訪問

(東京廿日)来る議會に提出する事にあつた電力統制案の腹案漸くなりたが、行は設けざる所の國會如何を除外し、主要送電線、米閘、水力の開発を國會とし之が運営は大日本電力会社社なる特殊会社に當り得るものである。

不干渉 分科委員会
スベイン
各國意見対立を暗黙に上

主立つたものの互北支上海の示
一線に赴かしの皇軍將士を慰
問すると共に盟中報國の精神
を会得し廟國の後は全國の慰
想轉向者の愛國運動に拍車を
かけしむる計畫を決定、本月
末出發の予定

スベイン分科委員、会
不干渉
各國意見対立で暗礁上

(倫敦十九日)本日午後スベ
イン分科不干渉委員会は義勇
軍撤退問題先決を建前とする
採擧提案に対する各國の意見

互腰板したか又と意見対立暗
礁に上るに至つた
即ち独伊兩國はスベイン而政権
に対する交戦團體権承認は義
勇兵撤退開始後に実現すべき
ものといふこと、同問題の審議
は義勇兵問題よりと先に行ふ
べしとの從來の態度より一歩
と譲歩せず、之に對して伊と
義勇兵全部の撤退の完了せ
ざる前は交戦團體権承認回
題は審議すべからずとの從來の
態度を堅持した、委員会は廿
日再開と決定したが各方面、部
分的打開すう不可能と観測してゐる



日本・亜国間の

電話通信

サービスを利用する
ことにより

時間と費用に
御節約下さい。

TELECOMUNICACIONES
INTERNACIONALES DE
LA NACION ARGENTINA
TRANSRADIO S.A.

SAN MARTIN 301
U.T. RETIRO 4701

POLICLINICO DEL

Dr. Cornejs Köster

AVENIDA DE MAYO 1334, 1º PISO D
TEL. 37-2239, DE 17 A 20 HORAS

治療は極めて有効で費用は極めて低廉である

コルネツホニステル
外科
内科
病院

淋病梅毒皮膚病、心臟肺臟胃腸、
腎臟其他の諸病、

小兒科及婦人科

ドイツにて医学を學べル一國に於

山東軍・戦備に狂奔 風雲急を告ぐる津浦線上

皇軍は満を持し只管敵状注視

(平泉十九日) 津浦線平泉方面 後退せしめ、西方高層に至る 敵軍は満を持して敵状注視 線には第八十師を配して戦備 管敵状注視しつゝあるが、 意に急りて皇軍の追撃 此れに對し山東軍は膠濟方面 至極度に警戒し、絶えず作候 にあつた第九十九軍第四十七 旅及び或は便衣兵を密派して 師を島城及びその後方地区に 情報蒐集に躍起とあつてゐる

我軍空陸呼應敵の最重要高地占領

(原平鎮十八日) 忻口鎮山地帯に據る敵八万の主力に對し陸 攻撃中の我軍は空陸呼應し遂に此地を占領 十八日午後四時 敵の最重要高地を完全には占領、更にその附近高地を攻撃中

北支の我陸空軍各所に威力發揮

(原平鎮十八日) 當地より東方五十キロの五台から南方に敗走中 の敵兵五百の大部隊を発見した我空軍は十八日午前九時爆 撃を敢行全滅せしめた
(大同十八日) 午前十時十分我空軍は太原を襲ひ太原飛行場 格納庫を粉砕した
(天津十八日) 我空軍は十八日山東省濟南北方約六十キロの商河 及び臨邑附近で敵軍用自動車各四五十台を粉砕、また鄭家口附 近運河上で敵兵溺死の軍用船五六十隻を爆破した

日蒙兩軍の包頭入城により 蒙古民族の氣勢昂る

(包頭十八日) 日蒙兩軍の包頭入城 遂に蒙古人大同團結の決意 城以來内蒙各地の王侯は陸々 表表明した
使者を包頭に派し歡迎の意を 表すると共に、漢民族の压迫 より蒙古民族の解放並びに防 共のため起つ用意ある旨を
(東京十九日) 興中公司では北

北支の經濟提携 着々實現に向ふ

世界戦史上特筆さるべき

北支戦線皇軍部隊の戦闘状況

近代戦の特徴を遺憾なく發揮

敵は高城の線、黄河北岸 の陣地喪失は山東省の運命 を左右するものと見做し、皇 軍は奮勇に狂奔しつゝある 様で、戦線に政治的生命的な する津浦線上の風雲は熱氣味 の沈黙のうちに定まるのみ、 微妙な動きを呈しつゝある
夫治安工作進展は益々冀東地 区内に日支合辦の電力会社設 立及び英支合辦の開港場事務 之提携、年産四百五十万の 石炭内地供給方針を定むると 共に同地区に在する含有量豊 富なアルミナ粘土の内地輸出 に協力すること、あつた

較比の戦露日

(東京十九日) 今迄まで 北支戦線に於て展開 された我が陸軍部隊 の戦闘状況は陸軍省 新聞部が調査し、此れ を日露戦争当時日露 兩軍の戦況に比較 研究せる所によれば、地形そ の他の諸状況が露戦當時に 比して遙かに困難なるに拘ら ず、その神速なる進撃振りは近

果敢！我海空軍荒鷲隊の活躍

中南支の敵陣地機関を片っ端から爆破

(上海十九日) 海軍航空隊は十九日午前一時頃南京を襲撃、各 重要軍事機關に徹底的な爆撃を敢行した
(上海十九日) 海軍航空隊は今朝七時頃より湖北敵重要陣地、鉄 道管理局、商務印書館前倉庫を爆撃粉砕した、また一部は江 漢、浦東、大場鎮、羅店鎮一帯に大爆撃を敢行した
(上海十九日) 艦隊報道発表によると海軍航空隊は十八日午 後六時漢口飛行場を空襲、敵大型爆撃機九、小型爆撃機二十を 爆撃焼死せしめ、空中戦で敵戦闘機二機を撃墜し全機無事帰 還した

北海の敵軍施設砲撃

(香港十九日) 我海軍は十七、八 日にかけて廣東省南部北海の支 那軍施設に砲撃を加へ多大 の損害を与へた

上海附近の敵を西方に圧迫

(上海十八日) 午後九時〇〇報 道発表によると我軍は十八 日朝来唐家宅、新宅、老隆宅附 附の敵に大打撃を与へ、逐次敵 を西方に圧迫しつゝあり
(上海十九日) 十七日の香港サンデー 皮肉な英國の支那漢業進出 圧迫は可成速度的に増加してゐる

歸國御禮

各位益々御清祥之候奉慶 賀候
陳省小生儀去る十六日出 帆のサントス丸にて無事 歸國の途に就き申候間何 卒御休被下度候
在軍中は種々御厚誼を蒙 り出帆の際には懇々御見送 り被下且つ御丁寧なる御 餞別まで頂戴致し誠に有 難く御厚礼申上候
先は乍先礼以紙上歸國御 挨拶申述べると共に各位 の御繁栄を祈上候
サントス丸船上にて

片島廉一

辱知諸賢

歸國御禮

各位益々御清祥之候奉慶 賀候
陳省小生儀去る十六日 出帆のサントス丸にて帰 國の途に就候、在軍中 は種々御厚誼に預り御厚 情奉謝候
尚ほ出帆の際には懇々 御見送り被下且つ多大の 御餞別を賜り厚く御礼 申上候、一々御礼状差上可 き苦の度乍先礼以紙上御 挨拶述べ御厚儀
サントス丸船上にて

吉田 益

辱知諸彦

我外交畑に於る隨一の南米通

方に駐亞公使として任命する

内山氏今回の駐米公使任命は
昨秋米既定り事案で、当時逸
早く本紙の報道也る如く氏は
昨秋一度駐米公使に内定さみ
たがその後本年春駐仏大使館参
事官としてパリに赴任少ぶ
からず我々が在亞同胞さ失望さ
こは是はしくあかつたので
一先ブ内山氏に仏國在動主命
じ然る後亞國に榮転させよう
この筋書き今回実行したもので
ある。いづれにしても永い
間公使の椅子が空席のまゝ放
置されとかく日亞兩國間の外

也た、嘗ては帝國領事として
 聖國に駐在し其の外交的手
 腕と清濁併せ呑む挖合力を以
 つて名領事ありこの太鼓判
 を據され、後に伯國の我大使
 館参事官として外交的手腕を
 發揮し外交畑に於ける当代隨
 一の南米通であり充分の實録
 ある内山氏が仏國大使館参事
 官として任命され、今日斯く
 駐亞公使に決定されたのは多
 分、嘗ては帝國領事として
 聖國に駐在し其の外交の手
 腕と清濁併せ呑む挖合力を以
 つて名領事ありこの太鼓判
 を據され、後に伯國の我大使
 館参事官として外交の手腕を
 發揮し外交畑に於ける当代隨
 一の南米通であり充分の實録
 ある内山氏が仏國大使館参事
 官として任命され、今日斯く
 駐亞公使に決定されたのは多

少理由があることみられる、即ち我外務省では伯国に対する英國の國際的地位を重視し、伯国大使館参事官現任のまゝ、直群馬県出身、明治二十三年二月生、同四十二年八月マドリッドへ

在垂同胞各位によろしく
 内山氏よりの挨拶
 内山参事官駐米公使に決定なり
 報に寺嶋代参公使は早速祝電
 在留同胞各位へ貴官より何卒
 よろしく御依たまふ」と返電

留学、同四十五年七月書生として西班牙在勤、大正六年十月外交官及び領事官試験に合格、同九年一月平和條約實施委員被仰付、同九年十月シエネーヴ國際聯盟總會第一回會議帝國代表の隨員被命、同十三年九月南米諸國に出張被命、同十五年三月シエネーヴ第九回國際労働黨政府代表員顧問を被命、昭和三年アルゼンチン領事ブエノスアイレス在勤被命、同六年一月佐總領事サンパウロ在勤被命、同九年八月大使館一等書記官ブラジス在勤、同十年四月佐大使館參事官、飯高等官二等、ブラヂル在勤、同十二年二月仏國帝國大使館付參事官パリに勤被命。

去る二日開校式挙行

教師は小原謙助氏

サンタフェ市在住邦人父兄團には夙に第二世日本語教育の必要が叫ばれてゐたが、この程いよいよ万難を排して之が実現に乘出し、サリオ市日本語小学校教師小原謙助氏を招聘する二日、在聖サンタフェ市日本語小学校の開校式を挙行した（サンタフェ市通信）

あらびあんで帰国に決る

あつた由である。

日独防共協定締結一周年日の祝意表世人

(伯林十八日)来る廿四日は日独防共協定締結一周年に當る
で、該協定を強化する意味を含めて當日にツットラー総統がノ
イラート外相、ケツベルス宣伝相等を随へ日本大使館を訪問し
祝意を表することはあつた、これに對し日本側は武省小路大
使を始め大島、小島兩陸海軍武官等が持符し午餐を共にしつ
ゝ懇談する筈であるが、独逸元首が日本大使雲卿を訪問する
のは前例のないことである。

一人は敵兵を袈裟掛け
他は敵將の首を挙げ

米水産トール船恒路丸乗組員は今國內村船長外、主名三残り、来る三十日出帆あらば、あれで帰国することにまつた。尚ほ残留乗組員もあと三、三回出張後帰國の予定で、新永組員はすでに入港の船路で来

(上海前線。〇〇廿日) 十八日のこの戦國に於て大野大尉麾下の山田大吉伍長は突撃命令と共に奮然敵營に突入、銃銃の引金を引き乍ら後退する敵兵に嘔りかゝつて、袈裟掛けに切下げ見事、百餘を虜にせし。是に並に機銃二挺を分捕

敵將の首を挙げた

され、これが調査のため云る
五月内地に在立約四ヶ月間未
開発の宝庫北氷洋を航行、つ
ぶさに調査して九月帰国した
が、同社のこの計画実現の晩
昨廿日帰社した、

帰社 例年の如く北亞地方旅行
中ふりし水野本社社長は

白会主催の

領事館電話番号
藤原氏独唱会
帝國領事館及び勸業評事務所
既報：日会主催国防愛国機献

帝國領事館及び勸業部事務所

報：日會主催國防愛國機獻

來ル十一月三日明治節ニ
付公使官邸（アリベニヨス
街一四一七番地）ニ於テ午後
正五時ヨリ小学校生徒健舞賀
式ヲ挙行ス

力工店血洗

漢船乗組給仕人

夫婦者 花弁園又は別
莊番として雇はれたし子
供あり
姓名在社

新着醬油

至藤原義江氏独唱会は来る廿四
 (巳午夜四時半)より日会々館
 開演に決定、入場料二ペソ(大
 小入共)入場券は日会々館
 三邦字新聞社に於て前売
 開始。

Bs. Aires, Jueves 21 de Octubre de 1937

SECCION CASTELLANA

Dirección: USPALLATA 981, U. T. 23 - 7051

Japón y las Potencias

La opinión pública de Europa agitada por el manejo intencional de ciertos elementos de tendencia extremista, y movida también por los gremios que defienden sin miramientos a escrúpulos de ninguna especie sus intereses materiales que consideran perjudicados, en desconocimiento completo de la noción de justicia, olvidándose hasta de la moralidad internacional en cuyo nombre pretenden hablar, y que se había volcado su simpatía ciegamente a favor de la China, en contra del Japón, como lo había hecho hace 6 años cuando suscitó el famoso incidente manchuriano, parece haber reaccionado ante la clara evidencia de la inmaculada verdad que sostiene el Japón, endosada con el honor de una nación jamás desmentida en su larga existencia de 2.600 años de vida independiente. Siguiendo a los editoriales de los diarios serios de Norteamérica, que condenaron la política de Roosevelt, que osó declarar que el Japón había violado los tratados, cuando la cancillería de Washington que cuida con celo sus intereses comerciales y políticos en el Extremo Oriente no tenía amotivo para hacer representación ante el Gobierno de Tokio, vemos ahora, no sin sorpresa, la reacción que refleja en el órgano francés, que parece confesar su arrepentimiento por la ligereza cometida hasta hace una semana. Nos referimos al editorial de “Le Temps” de París de fecha 15 del corriente que, con el título sugerente de “El Japón Caballero y las Potencias” condena la política europea con respecto del Japón. Hé aquí los principales párrafos del mismo:

Sostiene el órgano francés por excelencia que el Japón no ha violado jamás el principio de la puerta abierta en China, diciendo que el Japón ha buscado en reiteradas ocasiones la cooperación de las potencias en China, y sobre todo la cooperación chino-japonesa, especialmente en todo lo que se relaciona con el comercio internacional y la política diplomática con respecto al Manchukuo. No son pocas las potencias que dudan de la sinceridad del Japón, pero esto es injusto. Los que conocen la condición industrial del Japón, no piensan ni por sueño que éste proyecta monopolizar el mercado chino; y los que saben la política del Manchukuo, no pueden decir que el Japón ha violado el principio de la puerta abierta: En Manchukuo no solo no rige política aduanera diferencial para ningún país, sino que las potencias no han sabido acudir a la invitación del Japón para participar en su desenvolvimiento económico. Este país que progresa, con única excepción de las materias que tengan relaciones directas con la defensa nacional, tiene abierta la participación internacional en todos los ramos de su actividad económica, de suerte que todos los derechos adquiridos de los extranjeros están conservados intactos, con el agregado de que, debido a su condición floreciente, el intercambio comercial con todos los países va en aumento progresivo. Ante estas evidencias, ¿dónde y cómo ha violado el Japón el principio de la puerta abierta en China? Ajustándose a esta prueba con relación al nuevo asunto de las cinco provincias del Norte

de China, podemos confiar que no habrá alteración en la política del Japón. Si las potencias se adhieren al Japón, con sinceridad, podrían realizar una cooperación internacional de amplio beneficio para la China, para el Oriente y para el mundo entero. Es realmente perjudicial para la humanidad envidiar una nación fuerte para simpatizar por otra débil, y la paz del mundo no se asegurará por ese método.”

LA CAIDA DE SUI YUAN

El 14 de Octubre cayó en poder del ejército imperial que coopera con el ejército mongol la fortaleza de Sui Yuan y la antigua capital mongólica Kwei-hwa, que servían de base para el ejército comunista anti-japonés que opera en el norte chino. La restitución de Sui Yuan en donde se conserva el mausoleo de Gengiskan constituye para los mongoles un acontecimiento de trascendental importancia histórica para ellos.

Los monogles podrán ahora, después de 270 años de sujeción a China, organizarse un Estado independiente con el apoyo del Japón. El júbilo que domina al pueblo es inmenso.

Continuando su marcha, el ejército japonés capturó el día 17, la fortaleza de Pao-Tow-Chen, el punto terminal del ferrocarril Peiping-Suiyuan, situado a 590 kilómetros al noroeste de Pekín, que constituye, sin duda, hecho más importante de las acciones militares de la semana.

La próxima acción parece ser la captura de Tai-Yuan, siendo probable que penetren al sur del río amarillo las triunfantes columnas del Hopei sur. No se hará esperar tampoco la batalla decisiva de Shanghai que por múltiples obstáculos que necesita vencer, su progreso es difícil como lento.

ESTUDIANTES UNIVERSITARIOS ACEPTADOS COMO AVIADORES VOLUNTARIOS PARA ACTUAR EN EL FRENTE

Tokio, Octubre 15. Domei — El ministro de Guerra, ante la insistencia de numerosos voluntarios que se ofrecen para servir a la patria en la emergencia actual, ha resuelto en principio, aceptar los candidatos para la aviación, sujetas a una reglamentación para su selección, dando como primera providencia la aceptación de cinco aviadores que son estudiantes universitarios.

EL BOYCOTT AL JAPON ES UN ARMA DE DOS FILOS

N. York, Oct. 14. Domei. — “The New York Times” en su editorial del día 12 con el título de “Boycott al Nippon”, opina en la siguiente forma sobre la inutilidad del boycott, a las mercaderías japonesas:

“El boycott al Nippon es como un arma blanca de dos filos y, al observar el pasado no contribuye sino para fomentar a las naciones, la política de bastarse a sí mismo y para disminuir el intercambio comercial del mundo. Al decir “bastarse a sí mismo nos referimos a que Japón se

provee de algodón, que constituye el primer objetivo de este país, por la posesión del norte de China.”

El “Herald Tribune” al recordarse la amarga experiencia de la guerra mundial, trae el siguiente comentario:

“Es muy lógico que la Gran Bretaña y Francia, sintiéndose animadas por los discursos del Presidente Roosevelt, adoptaran una actitud más enérgica; pero la tesis del presidente ha salido de los altos ideales de la moral y de la justicia y no para que algunos aprovecharan para los fines que nada tienen que ver con los ideales del presidente. En el país los discursos han recibido grandes aplausos porque las frases del presidente han tocado el sentimiento humano del pueblo. Y hasta hubo la exaltada opinión que comentaba sosteniendo que el Presidente Roosevelt castigaría al Japón como lo hizo el Presidente Wilson con Alemania. No olvidemos, sin embargo, que la doctrina Wilsonista ha tenido que sacrificar 5.000.000 de soldados y gastar 50.000.000.000 \$. Una vez pasados los primeros momentos de la exaltación sentimental, reflexionar con serenidad, no solamente los que desde el principio se mantenían en duda, sino también los que se sintieron exaltados por un sentimiento humanitario, en estos momentos comienzan a pensar que los Estados Unidos, suceda lo que suceda, no debe ser arrastrados al torbellino de la guerra.”

POTENCIAS DEBEN RECONOCER LA LEGITIMA DEMANDA NIPONA

Barwick 14. Domei. — El jefe del partido liberal británico Sinclair declaró en la sesión del Congreso del partido liberal, celebrado en la ciudad de Barwick en Inghland Norte el día 14, que para contener la acción nippona en China, las terceras potencias deben reconocer la legítima demanda nippona.

PERDIDAS CHINAS

Shiuraku 15. Domei. — Las pérdidas del ejército chino ocasionadas en la batalla de Shi-Kia-Wang alcanzan a 30.000 soldados de los cuales 10.000 están abandonados en los campos de batalla.

ACTIVIDADES DE LA AVIACION NAVAL

TOKIO, Octubre 15. Domei. — Según la declaración del Ministerio de la Marina, la aviación naval nipona ha realizado desde el día 12 al 14 los siguientes bombardeos: en la zona de Shanghai, no solamente la línea del frente, sino también consiguió cortar el camino de la retaguardia china, ocasionándole grandes daños.

En la zona del Norte de la China, destruyó totalmente varios vagones chinos cargados de soldados en la línea del F. C. Tientsin-Pu-Kow. Además en la zona del Sur central de la China, destruyó en su mayoría, las instalaciones militares, los ferrocarriles y los aeródromos de Nankín, Hopei, Kantón-Hankow, etc. Los aviones chinos destruidos en estas acciones son diez y los desaparecidos nipones son cinco.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR

RADIO
EXCELSIOR

LAMPARAS “YAMADA” DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA
“YAMADA”

En venta en las buenas casas del ramo

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS “AGUILA” está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS “AGUILA”

ES UN PRODUCTO SAINT.

JAPON PUEDE BASTARSE A SI MISMO

TOKIO, Octubre 18. — El señor Shitji Yoshino, ministro de comercio e industria del Japón, declaró ante el representante de la United Press, que el Japón está en condiciones de bastarse a sí misma en la emergencia actual. Las condiciones financieras no pueden ser más sanas, como lo demuestra el hecho de que los gastos que demanda el desarrollo de las hostilidades son fácilmente absorbidos. El Japón es hoy un país muy distinto de lo que hace 20 años, debido al desarrollo de su técnica de ingeniería industrial. Nuestro país puede actualmente hacer frente a casi todas sus necesidades, incluso en el renglón de los materiales de guerra.

En cuanto al comercio exterior, no hay ninguna dificultad para obtener las materias primas y nuestras exportaciones funcionan perfectamente.

En lo que concierne a la alimentación, Japón tiene suficiente arroz y productos marítimos.

ANIVERSARIO DE "LA PRENSA"

"La Prensa" cumplió el 18 del corriente un nuevo aniversario, entrando en su 69º año de trabajo.

"La Prensa", de Buenos Aires, que es hoy uno de los diarios más importantes del mundo, celebra su cumpleaños este año con la satisfacción de haber comprobado el alcance de su prestigio internacional como órgano de opinión seria y respetada que representa el ideal democrático desinteresado y firme que corresponde sostener para la América latina, que tiene reservada un porvenir importante en el concierto universal donde puede

aportar contribuciones de gran alcance para la civilización de la humanidad.

"El Argentín DjiJo" saluda al gran diario argentino, formulando votos por su creciente prosperidad.

INFORMACIONES DEL INTERIOR

MENDOZA, Octubre 13. — Se realizó ayer en la finca "Los Nogales" de propiedad del señor Hoshi, la anunciada fiesta deportiva de la Asociación de Jóvenes Japoneses de la localidad. Concurrieron al certamen numerosos aficionados incluso los escolares argentinos, siendo muy animada la reunión. Después del programa deportivo que resultó muy interesante, hubo bailes en la estancia, en donde, se reunieron más de 400 personas de la vecindad en un ambiente de franca alegría de fraternización argentino-japonesa.

UN MILLON DE ESTUDIANTES REZARON POR EL PRONTO RESTABLECIMIENTO DE LA PAZ

El domingo 17 de octubre, día consagrado desde la antigüedad para la celebración de la cosecha de arroz, que equivale al Thanksgiving day de los norteamericanos, la ciudad de Tokio, capital del Imperio del Japón, ha presenciado este año un espectáculo conmovedor: Un millón de niños y jóvenes escolares han desfilado por los templos, en donde se oficiaron la ceremonia de Te Deum por la acción de gracia y, en donde, rezaron por el pronto restablecimiento de la paz en el Asia Oriental.

La ciudad de Tokio, ciudad estudiantil por excelencia, que cuenta con 22 universidades, 80 instituciones de estudios superiores, 1.000 escuelas secundarias, normal y especial y 700 primarias, con un total de más de un millón de alumnos de ambos sexos, ha ofrecido un panorama espectacular y bien significativo que quedará impreso en la mente de ese pueblo que tanto ama la cultura, la paz justa y honrosa para el Imperio y en bien de la Humanidad.

Y este acto que, seguramente, se habrá realizado en todo el país, con la participación de los estudiantes, que representan allí el 20 por ciento de la población total, quiere decir que catorce millones de tiernas almas han formulado rogatorios al mismo tiempo por la victoria de la guerra justa a que se halla entregado el Imperio, por culpa del vecino, con la noble misión de implantar la paz duradera para todos los pueblos del Asia Oriental, que de ese modo contribuirá con eficacia al lento, pero seguro progreso de la civilización universal.

NUEVO MINISTRO DEL JAPON EN LA ARGENTINA

Tokio, Oct. 19. — Ha sido designado el nuevo enviado extraordinario y ministro plenipotenciario del Japón ante el gobierno Argentino, en reemplazo del Dr. Jiro Yamasaki, el señor Arataro Uchiyama, quien actualmente desempeña el cargo del ministro consejero de la embajada Japonesa de París.

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p>T. NISHIZAWA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p>F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>H. KATO Única Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p>IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p>Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p>KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2318</p>	<p>R. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p>S. ANDO y Cía. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193.</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336, U. T. 31-3193. CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1452.</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435. ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893.</p>
<p>N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p>TARO MURAI Única Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	<p>COMPAÑIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>